

Long-term follow-up of cats in complete remission after treatment of feline infectious peritonitis with oral GS-441524
Katharina Zwicklbauer et al. J Feline Med Surg. 2023 Aug.

猫伝染性腹膜炎 (FIP) は、猫コロナウイルス (FCoV) によって引き起こされる猫の一般的な病気であり、臨床症状が現れると死に至る悩ましい感染症でした。しかし、最近、GS-441524 を 84 日間経口投与し、FIP の治療に成功したことが実証されており、日本でも使用されている事が多い薬だとも思います。本論文の目的は、長期的な転帰を調査してくれています。

以下、簡単な要約です。

目的

GS-441524で治療に成功したFIP猫の長期的な転帰を評価することでした。

方法

動物

治療に成功した合計 18 匹の猫

期間

治療開始後最長 1 年間(抗ウイルス治療完了後 9 か月)

追跡検査方法

12週間間隔で実施

身体検査、血液学、血清生化学、腹部および胸部超音波検査

RT-qPCRによる血液および糞便中のFCoVリボ核酸(RNA)量、およびIFAによる抗FCoV抗体価を測定

結果

治療開始から

24 週目に 18 匹

36 週目に 15 匹

48 週目に 14 匹

治療終了後も検査パラメータは安定しており、血中ウイルス量は検出されませんでした。

5匹の猫で糞便からのFCoV排出の再発が検出されました。

4匹の猫で、抗FCoV抗体力価の中期的かつ短期的な上昇が検出されました。

12匹の猫は、研究期間中に腹部リンパ節腫大を示しました。

2 匹の猫は、それぞれ 36 週目と 48 週目に、猫知覚過敏症候群と一致する軽度の神経学的症状を発症しました。しかし、FCoV RNA は血液や糞便から検出されず、抗 FCoV 抗体力価の増加も観察されず、兆候は解消されました。

結論

GS-441524 による治療は、短期的にも長期的にも FIP に対して有効であることが証明され、1 年間の追跡期間中に再発は確認されませんでした。神経学的兆候が治療の長期的な副作用であるのか、それとも「長期FIP症候群」に関連しているのかについては、さらに評価する必要があります。不治の病であったFIPに治療薬が開発され、再発なく過ごしてくれるのは有り難い事です。夜間では使用することのない薬ですが、FIP疑いの猫さんには、夜間診療でも出会いますので適切なインフォームをしたいと思います。